

報告 9 スウェーデン

高等学校の統合教育

ストックホルムは、「水の都」といわれ 14 の島からできている。ホテルのあるクングスホルメン島は、落ち着いた雰囲気住宅街で、裁判所や警察がある。

ホテルの西 1 キロほどにあるサンクト・エリクス高校 St. Eriks Gymnasium は 1300 人が学ぶストックホルム最大の高校で、100 人の障害のある子らの統合教育が行われている。

でも、ここはスウェーデン。「高校」といっても日本のそれではない。大学をめざす「標準コース（3 年）」と「専門コース（4 年）」があり、職業専門種類は 44 種ある。この高校には、商業、経理、秘書、家具職人、電気技術者、美容、音楽、ダンス、演劇、ホテル・レストランなどのコースがある。

2008 年に訪問した知的障害のある子らの特別高校＝リンデパーケン高校では、生徒 104 名に 60 人のスタッフ（教員 25 人、アシスタント 25 人、その他管理職や食堂スタッフ等）が 4 年間学び、希望があれば 2 年間の延長も可能と聞いた。

＊

エバは、5 人いる校長の一人で障害児教育の責任者だ。

- ・知的障害のある学校として、職業訓練中心でスタートしたが、1930 ～ 40 年代の仕事は、義足や義手づくり、箸づくりなどだった。いまでは、そうして働ける人は「軽度」と考えている。

- ・知的障害のない肢体不自由の子らは他の生徒と同じようなカリキュラムで卒業する。視覚や聴覚障害がある場合、寄宿舎のある国立高校で学ぶこともある。この高校では、知的障害のある子らの特別なクラスをつくっている。

A＝重度の知的障害がある場合＝成績表はなく、5 つの科目を学ぶ。補助器具も提供される。しかし、卒後の働く場はほとんどない＝働けないから「早期年金」＝障害者年金が支給される。



B＝中度の場合は成績証明が受けられる。ネット検索などはとても得意で能力を高める訓練もおこなわれる。自閉症で知的障害のある子。知的障害のない「自閉症スペクトラム」の子などもここ。

C：軽度の場合。と 3 グループに分けている。

- ・こうした診断には医師の診断書、心理学者調査に加え、教育学的判断、社会的な判断がなされ、最後は自治体の判断担当者が判断している。

＊

移民の子どもたちは約 6 割と聞いた。中度の子らのクラスに行くと、パソコンがいっぱいで調理実習ができる教室もあった。

20 年前。はじめての北欧への旅で「インテグレーション（統合教育）」をキーワードに訪問したが、この間、全障研などが主張してきたものそのもので、その現実が北欧にあったと、大きな確信となったものだ」と書いている。その後訪ねた学校でも同様の感想を持ち、確信を深めた。

全障研は、2010 年 3 月「障害のある子どもの教育改革提言～インクルーシブな学校づくり、地域づくり～」で、制度改革の教育問題でアピールした。

○学校教育は、すべての子どもの差異と多様性、固有のニーズとアイデンティティを尊重するとともに、特別なニーズのある子どもには、すべての子どもに対する権利一般にとどまらず、合理的配慮（理にかなった条件整備）や特別なケア・サポートへの権利を保障する。（総論）

○市場競争的な学校選択でも、自己責任を強いる自己決定でもなく、必要かつ十分な情報と相談に基づき、子どもの最善の利益のために本人や保護者が納得・安心して就学先を決められ、学習形態や方法を要望できる体制をつくる。

○教育条件を抜本的に改善するために、通常の学級を小規模化するとともに、各学校の学級数ないし児童生徒数に応じて、コーディネーターの定数化、専門性のある支援スタッフ、心理士、福祉士等の配置を進め、全校的支援体制を確立する。 は、歴史的な提言だ。（藺部英夫）